

平成19年度全国俳句募集の実施について

「俳聖」松尾芭蕉、「俳祖」荒木田守武ら多くの俳人を生んだ三重県の文化発信事業として、また、福井・岐阜・滋賀・三重の4県連携事業として、平成19年度も全国俳句募集を下記のとおり実施します。

記

1 募集テーマ 「光」(ひかり)

「光」は、太陽の放つ日光を源に、月光、雷光、火の灯り、蛍の光、電気の光など、自然、動物、人工物と様々なものから放たれています。

太陽の光・星の光により昼と夜が分かれ、植物の成長、ひいては自然現象の根源として光は存在しているといえるでしょう。生活においては様々な合図や信号が光で示されています。

俳句の題材は、身近にあり、四季の彩を感じさせるものが適当である、といわれますが、風光る春、蛍火の夏、送り火の秋、初明りの新年などといった季語に含まれるように、「光」はそれにふさわしいといえるでしょう。また、例えとしての「光」の使われ方も、「家族の光」「希望の光」といったように多種多様で、「光」の表現方法も「輝き」「煌き」「瞬き」「眩しき」「閃き」等様々であり、そこから個性豊かな俳句が生まれることも期待できます。

また、芭蕉も、光に関する俳句を詠んでいます。「奥の細道」においては地名の日光と自然の日の光とを詠んだ「あらたふと青葉若葉の日の光」、流人の島である佐渡と日本海に空の七夕の織姫と彦星の逢瀬の舞台となる天の川を配置したスケール大きな句「荒海や佐渡に横たふ天河」、の有名な二句が詠まれています。

三重県においても、光の神である天照大神をまつる伊勢神宮があり、式年遷宮に向けて様々な行事が行われている最中です。

以上から、平成19年度のテーマを「光」とすることとしました。

- 2 募集期間 一般の部・学校の部とも
平成19年5月16日(水)から11月19日(月)まで
5月16日は「旅の日」・芭蕉が奥の細道に出発した日とされています。
- 3 選者(予定) 一般の部・学校の部とも
テーマ部門：有馬朗人、宇多喜代子、中原道夫、星野椿
自由題部門：三重県俳句協会
- 4 問い合わせ先 三重県生活部文化振興室 TEL：059-224-2176